



TEAM NEXT YONEZAWA



株式会社第一ほうせい代表取締役社長も務める鈴木ゆかりさん。画像に見える草履や椅子は元々着物と帯でした。大手呉服店で働いた経験があり、丁寧なおもてなしでサロンを桃色のように優しく運営しています。

きものモモ彩いろ(中央2丁目) —
埃をかぶったお着物を
誇りを持って一生物ものに



▲米沢品質向上運動
公式ページ

老舗縫製工場である(株)第一ほうせいの中に、米沢織の販売やリメイクなどを手掛ける着物サロン「きものモモ彩」があります。代表の鈴木ゆかりさんにお話を伺いました。

「日本の伝統色である桃色と、日常に彩りを添えたいという思いから、きものモモ彩、と名付けました」。

これまでは大手着物チェーン店との取引を主に行ってききましたが、着物を着る人・着たい人を直接応援したい、という気持ちからサロンを始めました。しかし、実際に訪れるお客様のの中には、もう着ない着物をどうしたらよいか分からない人も多く、そこで始めたのが着物リメイクです。捨てるしかないと思っていた着物や帯が、美しいクッションや椅子、ランチョンマットなどの日用品に変身。着物特有の繊細で上品な柄を活かして、ロングドレスを仕立てたこともあります。リメイク案は今後も増やしていく予定です。「着物のプロが技術を注ぎ込むので、ナンセンスなものではありません」と鈴木さんは自信満々に話します。

「SDGsではありませんが、本来、着物は親から子に受け継がれながら、永く愛用されるもの。タンスの奥に眠らせるのではなく、今の生活スタイルに合わせた形で大事に使ってほしいです。そのお手伝いがしたいです」

今後の意気込みを伺いました。「米沢で着物に困ったら、きものモモ彩に頼めば間違いない、と言われる存在になりたいです」。

式典の思い出、形見、家宝。着物には色々な物語があり、それゆえに簡単には捨てられないもの。プロの一針が、眠っている着物に次の物語を紡いでくれるでしょう。

「米沢品質向上運動」とは

本市では、挑戦と創造のあかし「米沢品質」をスローガンに掲げ、産品だけでなくサービス・観光・文化・行政など、様々な分野の「挑戦と創造」を喚起し、付加価値を高めていくことを目的に「米沢品質向上運動」を展開しています。本市のブランディングに賛同し、この運動に参加するプレイヤーが「TEAM NEXT YONEZAWA (TNY)」です。(11月14日現在、188の企業・団体・個人が登録)

